広報 にっこう
2006年8月1日号
平成18年8月1日発行

日光今昔物語

第五話

～ 今市の線香づくり ～

作業場で線香作りに励む人たち（昭和39年ごろ）

今市地域を代表する地場産業の一つ、杉線香。その始まりは江戸時代にまでさかのぼります。

安政6年（1859年）、越後国（現在の新潟県）出身の安達繁七（あだちしげしち）が日光東照宮を参詣した際、今市の豊富な杉と水車を利用した線香作りを思いついたことがきっかけでした。以来、水車を動力とした杉線香作りが盛んに行われ、全国でも有数の生産地へと発展していきました。

現在、今市地域には15の線香業者があり、杉線香のほか、タブノキを原料とした匂い線香を生産しています。平成16年工業統計表によると、栃木県の線香類出荷額（従業者4人以上の事業所）は約34億2,900万円で全国3位。そのうち、約7割は今市地域が占めています。

実際に製造工程を見学できる線香工場もあります。杉線香を作る工場では、杉の香りが漂う作業場で、熟練した職人の技を間近に見ることができます。

今月の表紙

7月7日（金）から14日（金）まで、今市地域の瀧尾神社で八坂祭が行われました。

8日（土）には、祭りのメーンイベントともいえる御輿渡御（みこしとぎょ）が行われ、約300名の担ぎ手が威勢のいい掛け声とともに関東一ともいわれる大神輿を担ぎました。沿道には、多くの方が見物に訪れ、担ぎ手たちに声援を送っていました。

7月の人口と世帯数

人　口	95,670人	（－75）
男	46,688人	（－18）
女	48,982人	（－57）
世帯数	35,939世帯	（±0）

※住民基本台帳による（7月1日現在）
※（　　）内は前月比

一喜一憂

暦の上では立秋を迎える8月ですが、まだまだ暑い日は続き、学生の皆さんは楽しい夏休み真最中だと思います。

夏というと、我が家ではきゅうりの味噌汁が食卓にのります。が、この話をするとたいていの人が驚きます。たまに「うちでも作りますよ」という人に会うと、旧知を得たようで思わず嬉しくなります。まぎれもない、夏という季節感いっぱいの我が家の味なのですが。

「ところ変われば・・・」という言葉があるように、全国でも3番目の広さを持つ日光市。きっと各地域には、まだ知らないいろんな魅力がいっぱいあることでしょう。夏から秋にかけて、各地域に古くから伝わる夏祭りやイベントなどが行われ、楽しさが盛りだくさんだろうと思います。

それらをどんどん紹介し、市民の皆さんに知って、参加していただき、新市の一体感に役立てればと思います。（恵）

編集：日光市企画部秘書広報課　☎21-5135
〒321-1292　栃木県日光市今市本町1番地
URL　http://www.city.nikko.lg.jp
E-mail　koho@city.nikko.lg.jp
印刷：㈱成文社

R100　PRINTED WITH SOY INK
「広報にっこう」は古紙配合率100％の再生紙と大豆油インキを使用しています。